

平成十三年度 札幌光星中学校入学試験問題 国語

注意事項

- 一、 試験時間は、四十五分間です。
- 二、 開始の合図により、始めて下さい。
- 三、 印刷が不明な場合のほかは、問題についての質問は受けません。
- 四、 解答は、すべて解答用紙に記入してください。
- 五、 試験終了後は、解答用紙回収が終わるまで、席を立たず、静かにしてください。

問題一 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。
 文字と文章を使って、何かを表現する方法を学んだのは、スポーツ・ライターという¹ ショクギョウについてからのことだった。

(A) 目の前を短距離走のランナーが走る。百メートルを十秒前後、秒速十メートル、時速三十六キロでかけぬける。その速さと迫力は、圧倒的である。肩の² キンニクが盛り上がり、太い足は前後に大きく開き、力強くトラックをける。八人のランナーが一齐にスタートする様を間近で見ると、大地の振動まで感じる。彼らの息づかいは、蒸気機関車が時おり激しくはき出す水蒸気のようなものである。

そんな迫力は、誰もが感じることだ。(B) その迫力を文字でどのように表現すればいいのか、わたしは、スポーツ・ライターという仕事をはじめた当初、おおいにとまどった。(C) 文章の基礎³ というべきものを、何も持ち合わせていないことに気がついた。

絵を描こうとする人が、最初から油絵の筆を持つことはないだろう。ピアノを弾こうとする人が、最初にベートーヴェンのピアノ・コンチェルトを弾くのは無理なことだ。(D) 最初は、デッサンを練習し、運指(指使い)の練習を繰り返さなければならぬはずだ。

もちろん、石膏の胸像を描きたいと思って絵を描こうとする人はいないだろう。ドレミファソラシドを弾きたいと思ってピアノをはじめめる人もいないはずだ。が、最初には、誰もが、基礎を身につけなければならぬ。風景画を描くにしろ、静物画や人物画を描くにしろ、また、いずれはモーツァルトやチャイコフスキーを弾きたいと思っっているにしろ、それが必要なのだ。ピカソもショパンも、そうしたはずだ。なのに、ピカソやショパンよりもはるかに才能で劣るわれわれが³ それをしないでいいわけがない。文章を書くことだけが、例外であるはずがない。

そのことに気づいたわたしは、まず、目の前で見たスポーツを、写真のように、TV中継のように、描写⁴ してみることにした。野球の試合で、バッターが打席に入る。そのことだけを、目で見たままに描いてみることにしたのだ。

バッターは、バットを肩にかついでいるのか、ズルズルと引きずっているのか。足取りは力強く⁴ ジシンにあふれているのか、それとも、少しばかり頼りなげに見えるのか。打席に入ったバッターは、どのような仕種⁵ で足もとの土をならすのか。どのように、何度、素振りをするのか。そのバッターの様子を、ピッチャーやキャッチャーは、どのように見ているのか。あるいは、無視しているのか。

それらをすべて文章に書いてみる。すると、⁵ それまであまり意識しなかったことに気がついた。バッターが打席に向かうとき、それまでネクストバッターズサークルで素振りをしていたマスコットバットを、地面に置く。いや、捨てる、といったほうがいいかもしれない。いや、手放す、投げ捨てる、放る、放り出す、放り投げる……。基本的な動作を示す動詞だけでも、無数にある。

見たままの出来事を、正確に、感想や感情を抜きに書き表そうとすればするほど、どの言葉が最も確なのか、と思ひ悩む。そして、言葉は山ほど数多く存在するというところに改めて驚いた、というわけである。

さらに、文章デッサンの練習をしようと思った結果、対象物をより細かく⁶ カンサツするようになった。それまで、打席に向かうバッターの態度など、あまり細かく見ることはなかった。せいぜい、引きしまった顔つきか、不敵な笑みを浮かべているか、という程度にしか、見つめていなかった。ところが、⁷ 肩をまわしたり、腕を振ったりする動作や、足を踏み出すときの歩はばの大きさといった⁸ 一挙手一投足が、なかなか面白いことがわかった。

ホームランを打った瞬間⁹ の迫力あるスイングや、サヨナラ・ヒットを打ったあとの満面に笑みを浮かべたインタビューよりも、誰もが見落としてしまふようなにげない仕種のほうに、スポーツマンたちの心理が表れているのだ。まさに、真理は細部に宿っているということに気づかされたのである。

文章にかぎらず、絵や音楽もふくめて、「表現」とは、すべて、外面的なものである。目で見え、耳で聞こえ、手で触れ、鼻で嗅ぎ、口で味わうことのできるものでなければ、「表現」とはいえない。

また、「素晴らしい表現」とは、「表現技術」が優れているものである。どんなに心の美しい人でも、技術がなければ、美しい絵は描けない。美しい音楽はかなでられない。もちろん、⁸ 美しい文章を書くこともできない。

ところが、文章や文字、すなわち、言葉というものは、日常的に誰もが自由自在に使っているものだから、誰もが⁹ カンタンに使いこなせるものと考えてしまっているのである。そこで、文章を書いたり、言葉で表現する場合、外面的な技術がなおざりにされ、内面的な感情ばかりが優先される。スポーツでも映画でも、また自分の体験でも、それを、文章や言葉で表す場合は、感想や感動が重視される。その結果、外面的な技術、つまり「表現」がおろそかになる。

最近の子供たちに、スポーツや映画を見たあと感想を聞くと、「面白かった」「すごかった」「最高だった」といった言葉しか返ってこないことが多い。どこが、どのようなだったのか、こんなふう面白かった、という具体的に描写することが苦手だ。それは、あまりにも、感性や心といった内面を重視しすぎたためといえるのではないだろうか。

*1 一挙手一投足……こまかいひとつひとつの動作

*2 なおざりに……いいかげんに

問一——線1「シヨクギョウ」2「キンニク」4「ジシン」6「カンサツ」9「カントタン」を漢字に直しなさい。

問二（A）（D）に入れるのにもっともふさわしいものを次の中からそれぞれ一つ選んで、記号で答えなさい。

ア まず イ そして ウ たとえば エ だが

問三——線3「それをしないでいいわけがない」の「それ」は何をさしますか。本文中の語句をもちいて、十字前後で答えなさい。

問四——線5「それまであまり意識しなかったことに気がついた」とありますが、筆者が気がついたことはどのようなことですか。本文中から二十字以内でぬき出して答えなさい。

問五——線7「肩をまわしたり面白くことがわかった」とありますが、「面白い」のはなぜですか。解答らんの形に合うように本文中から四十字以上五十文字以内でぬき出し、初めと終わりの五字で答えなさい。

問六——線8「美しい文章」とはどのような文章だと筆者は述べていますか。次の語句をもちいて、五十文字以上六十文字以内で答えなさい。

（語句） 内面 表現 具体的

問題二 二つ以上の漢字が結びついてできた言葉を「熟語」といいます。次の1～8の熟語の組み立ての説明として、もっともふさわしいものをあとのア～クの中からそれぞれ一つ選んで、記号で答えなさい。

- | | | | |
|------|-------|------|-------|
| 1 着席 | 2 原始林 | 3 無料 | 4 非常識 |
| 5 深海 | 6 衣食住 | 7 温暖 | 8 売買 |

ア 似た意味の漢字を重ねたもの（例「減少」）

イ 反対の意味の漢字を重ねたもの（例「左右」）

ウ 上が下をくわしく説明するもの（例「高山」）

エ 「何を」や「何に」の漢字が下にあるもの（例「読書」）

オ 上に打ち消しの漢字がつくもの（例「不調」）

カ 二字の熟語の上に一字ついたもの（例「総面積」）

キ 二字の熟語の下に一字ついたもの（例「放送局」）

ク 三字がそれぞれ独立しているもの（例「市町村」）

問題三 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

よく朝、¹ぼくはテントをたたく雨の音で目をさました。ひどいかっこうで寝ている正志と勇太を残してテントの外に出てみると、コウちゃんとお父さんがかさをさして話をしている。

「たいした雨じゃないけど、雨の中を登るのは、できるだけさげよう。まあ、もう少しすをみてみようか」

どうやら、雨がやむのを待って出発するようだ。そのうち、香織と麻衣も車からそこそはいだしてきた。そして正志と勇太も寝とぼけた顔で起きてきた。

「おはよう。雨だね……」

なあと、小雨さ。ぼくらはテントの中で雨がやむのを待った。朝食をとり、着替えをすませてスタンバイしても、細かい雨はまだ降り続けている。

(A)

コウちゃんが、めずらしくイライラしてる。

(B)

勇太はいつも脳天気。^{*1}(こいつ、意外とワイルドだな)

三十分ほどたって、ようやく雨はやんだ。

「七時半か。予定より一時間おくれた。いそいで出発しよう」

コウちゃんは屈伸運動をした。足は本当にだいじょうぶらしい。

「コウちゃん、足はもう平気なんだね」

「あたりまえさ、山男の足は性能バツグンなんだ。治りの早さも一級品さ」

コウちゃんの言葉にガハハと笑ったお父さんの後ろで、²香織と麻衣はまだリュックもしよっていない。

(C)

ぼくが³じれったそうに言うと、香織と麻衣はゆっくりと顔を見あわせた。

「あたしたちは、いいの。ここで四人を待ってる」

何を言ってるんだ、ここまできて。

「あたしたち、一日だけいっしょに歩くつもりだったのに、こんなところまできちゃって悪かったなって思ってる。本当のこと言うと、はじめは冷やかし半分だったんだ。『女にはできっこない』なんて言われて、くやしかったのね。それで一日歩いて『なんでもないじゃん!』って言い返してやりたかったの。でも、みんなのこと見てて、そんなこと考えてた自分が情けなくなってきたんだ。恥ずかしくなったの。あたしたち、暑い土手の上だって歩いてやしないし、計画だって立ててない。それなのにいちばんいいとこだけとって水源に行くなんてできないわ。だから待ってる。四人で行ってきて!ここで応援してるから」

⁴ぼくは、「だけどさ……」と言ったきり、もう何も言えなかった。コウちゃんも、お父さんも関係ないほうを見ているだけで何も言わない。ふたりとも香織の考えを知ってて、賛成したんだな。そんなのあるかい、そんなの。

(D)

正志がとつぜん、言った。

「勝手なこと言うなよ。勝手に仲間に入ってきて、ぬけるときまで勝手に決めるなんて、そりゃないぜ」

風の音が、ヒュルンと鳴った。なんだか映画のシーンみたいだ。

「とちゅうからだってなんだって、ここまでいっしょにきたんじゃないかよ。へとちゅうっていうんなら、おれと勇太だってそうだ。海からここまでできたのは、一平と光太郎さんだけなんだからな。香織と麻衣がそんな理由で行かないんなら、おれと勇太も行けないさ。なあ、勇太」

いきなりふられて、勇太は⁵どぎまぎした。

「ほらよ、時間がないんだ、早くしたくしちやえよ」

正志がめんどうくさそうに言うと、香織と麻衣は (E) 「ウン」と答えた。(正志……。ただの乱暴者だと思ってたのに……。やけにカッコイイじゃないかよ、おい!)

やがて香織と麻衣が準備を終えて、車から出てきた。

「よしっ、出発だ!」

がんばれよ、というお父さんの声援を背中に受けて、ぼくたちは水源にむけて歩きはじめた。

*1 脳天気……明るくのんきなこと。

問一——線1「ぼく」とは誰のことですか。その名前を本文中からぬき出して答えなさい。

問二——線3「じれったそうに」5「どぎまぎした」の意味としてもっともふさわしいものを次の中からそれぞれ一つ選んで記号で答えなさい。

3「じれったそうに」

ア じつとがまんしながら

イ てれくさそうに

ウ よく考えもしないで

エ 待ちきれない気持ちで

5「どぎまぎした」

ア 困り果ててしまった

イ 恐ろしくなってしまうた

ウ あわててしまった

エ 興奮してしまった

問三 () A () B () C () D () に入れるのもっともふさわしい言葉を次の中からそれぞれ一つ選んで、記号

で答えなさい。

ア「おい、なにやっつてんだよ。時間がないんだから早くしろよ」

イ「ふざけんよ」

ウ「まいったな、時間がもったいない」

エ「しかたがないよ、まあ、なんとかなるって」

問四 () E () に入れるのもっともふさわしい言葉を次の中から一つ選んで、記号で答えなさい。

ア とびきりの笑顔になって

イ ほっと安心した表情で

ウ あきらめた様子で

エ はっと驚いた顔をして

問五——線2「香織と麻衣はまだリュックもしよっていない」のはなぜですか。その説明としてもっともふさわしいものを

次の中から一つ選んで、記号で答えなさい。

ア 女にはできっこないと言われたのがくやくして参加したけれど、たった一日でもつらくて、最後まで歩き通せないとお

きらめたから。

イ 一日歩いてみせてこの計画がたいしたことはないと言いつつもりだったのに、言えなくなった自分たちが恥ずかしく

なったから。

ウ 雨はいつまでも降り続けているしケガ人もいるので不安になり、自分たちは行かずに応援しているほうが楽だと考えて

いたから。

エ 男の子たちのがんばる姿にくらべて冷やかしか半分仲間に加わった自分たちには、目的地の水源まで行く資格がないと

えんりよしたから。

問六——線4「ぼくは、『だけどさ……』と言ったきり、もう何も言えなかった」について、ぼくの気持ちの説明としても

っともふさわしいものを次の中から一つ選んで、記号で答えなさい。

ア 香織と麻衣がちゅうでぬけるのはずいといと文句を言いたいが、か弱い女の子だから仕方がないとあきらめたから。

イ 香織や麻衣と最後までいっしょに行動したいと思っていたのは、自分だけなのかと感じたから。

ウ 香織と麻衣が、せっかくここまで来たのに残ると言ったのは、よくよく考えてのことだと思っただから。

エ 香織や麻衣とは最初から考え方が違っていたことに気づいてやる気をすっかりなくしたから。

問七 この場面に登場する人物についての説明として、合っているものには○、合っていないものには×を記入しなさい。

ア コウちゃんは子供たちよりは年長で、みんなを元気づけようと明るくふるまっている。

イ ぼくと勇太はやる気満々だが、こまかいことには気がつかないのんびりした性格である。

ウ 正志は言い方がきついけれど、他人の気持ちをよく理解できるやさしい人柄である。

エ お父さんは子供たちにすべてまかせることができず、あれこれと心配してついてきている。